

# 努力賞

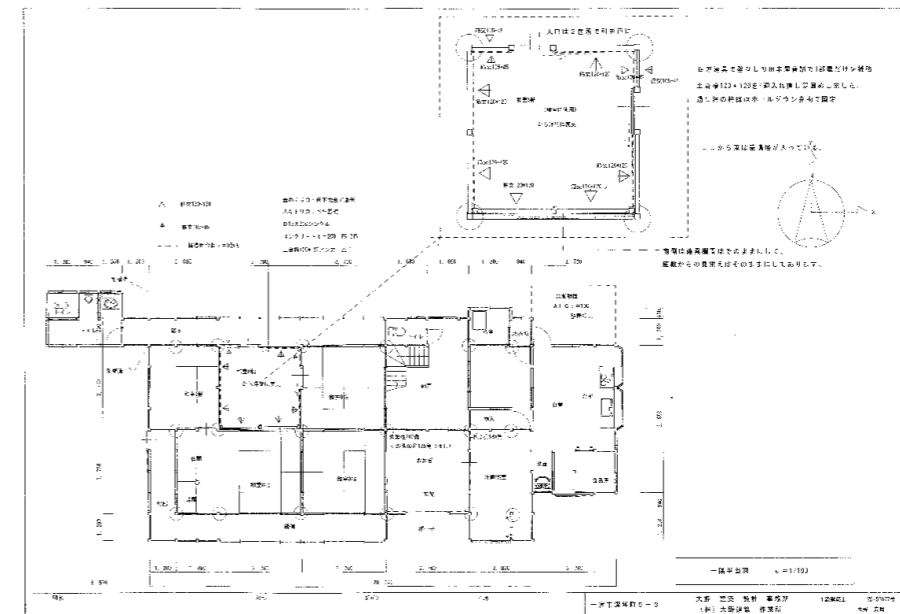
## 【工法の種類】太物筋交による耐震補強

### 【応募者名】耐震推進化グループ

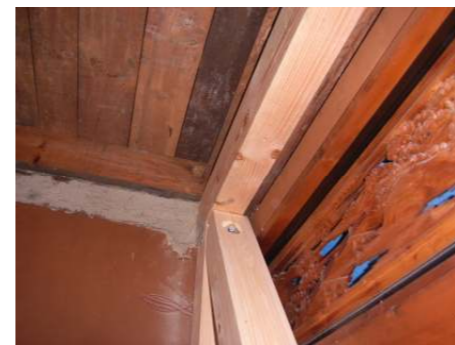
### 株式会社 大野建築作業所

昭和28年建築で 旧尾張の本屋普請と思います。大黒柱には260角（檜）で、差し鴨居構造ですが、他の通し柱が135角ですので伝統工法になりません。私共の父親が、戦後丁稚奉公に入り最後の作品で、父親にしても私としても又お客様としても、思い入れのある建物で、愛着を持って大事に使われてきました。お客様の希望は、外観、玄関、座敷、居間は、現在のままで残したいとのことでしたので、寝室に使用する和室を洋間にする補強で、0.72まであげる事ができ、安心しています。太い筋交い120×120が見えていますので、実際この筋交いが4方に入っていると実感でき、お客様も点数以上に安心して見えます。又、いままで建具ばかりで寒かったのが、ずいぶん暖かくなったと喜ばれて、感謝していただきました

- ・耐震診断値 改修前 0.37 改修後 0.72
- ・工事費 ￥1,100,000.-
- ・工事期間 1ヶ月



尾張の本屋普請総入母屋の家



筋交い 120×120 ボルトで固定

内面から筋交いが見えて安心感がある

【講評】本事例は、築57年のいわゆる田の字型の間取りで在来工法の木造住宅である。一階の一室を柱と同じ寸法の太物筋交いと構造用合板で補強することで、この部屋をシェルター化し、安全性を確保している。施工は、他の居室への影響を最小限にとどめ家主への生活負担を軽減している。判定値は0.37を0.72以上に改善がされている。県内の他にも多数あるこのような間取りの住宅において、部分的な補強であるが耐震化工事の参考になる好事例である。